



藤沢市立学校の新型コロナ感染対策についての陳情

2022年6月1日

藤沢市 議会議長 佐賀和樹

様

〈陳情項目〉

1. 文科省令和4年5月24日事務連絡「学校生活における児童生徒等のマスクの着用について」の趣旨を正しく踏まえ、引き続き児童生徒に対し適切なマスクの着用を促す。
2. 教育現場において、感染症対策の専門家の意見を取り入れた感染対策を継続する。

〈陳情理由〉

1. 新型コロナ感染対策としてマスクが重要であることには科学的根拠があります。WHO(世界保健機関)はQ&Aの中で「マスクは感染を抑え、命を守るための重要な対策です。」
「マスクの着用は、「できることは全てやろう!」という包括的アプローチの一環として行われる必要があり、他の対策には物理的距離の確保や、人混みや密閉空間、密に接触する場所の回避、十分な換気、手洗い、そしてくしゃみや咳をするときは覆うことなどがあります。マスクは種類によって、健康な人を保護するためのものと、他人への感染を防ぐためのものがあります。」と述べています。

児童生徒には、新型コロナウイルスに罹患した場合に重症化が懸念される基礎疾患がある者もいますし、高齢者や妊婦、基礎疾患患者など高リスクの家族と同居している者もいます。また、後遺症(Long Covid)が子どもにも見られることが昨今報道でも話題になっています。後遺症については未知のことも多く治療法は確立されていません。子どもであっても感染しないに越したことはなく、できるだけ学校現場における感染を避けるために、引き続き、基本的な対策の1つとしてマスク着用が重要であることは以前から変わりません。

令和4年5月24日文科省事務連絡「学校生活における児童生徒等のマスクの着用について」も「マスクの着用は引き続き基本的な感染対策である」ということを当然の前提にしたうえで、「身体的距離が確保できないが、会話をほとんど行わない場合のマスク着用の考え方を明確化」したものにすぎず、決して、一律に児童生徒にマスクを外すよう指導するものではありません。「マスクの着用を禁止する趣旨ではない」「マスク着用を希望する児童生徒等に対しても適切な配慮が必要」と記載されています。熱中症等への配慮が必要なことがある状況ではマスクを外すなど適切な対応がとられるべきことはもちろんですが、しかし文科省事務連絡も文字通りそのような意味であることを踏まえ、藤沢市においても、引き続き、児童生徒及び教職員の健康を守るための感染症対策の見地から、適切なマスク着用をご指導下さい。

昨今、一部メディアの影響もあってか、身体的距離が十分とれない状況でまでマスクを外させようとする動きがあることを懸念しております。これは文科省や厚労省の通知の趣旨にも反しています。他自治体も含めての状況ですが、事実上一律禁止のような運用をする学校も出始めているようで、学校現場には混乱があるようにも見受けられます。実際に、藤沢市内のある市立小学校では、体育の授業の際に教師が「みんな、体育の時はできるだけマスク外してね」と述べたため、低学年の児童は指示に近いニュアンスで受け取り、ほとんど全員がマスクを外したということがありました。しかしその場での換気は十分ではない様子であり、また、密集・密接した状態で会話が盛んに行われていました。リスクを感じた児童が自らマスクを着用することが禁じられることまではなくても、同調圧力からリスクがあっても外さざるを得ないということも懸念されます。文科省通知の趣旨も踏まえ、マスク着用を希望する児童生徒にも配慮し、体育の際には以下のような文言を添えるなどの細やかな学校への指導をされるよう要望致します。

(例)「みんな、体育の時は、お互い近づかなければマスク外してもいいよ」

「もちろんマスクを着けたい子は着けていていいよ」

2. 学校現場での感染対策においては、感染症対策の専門家の意見を積極的に取り入れて下さい。

今まで、地元藤沢市医師会は、教育現場での感染状況を懸念し、何度か書面にて教育委員会に対し要望を出しているそうです。専門家である医師の意見を積極的に現場での感染対策に生かして下さい。今まで、地元医師会の意見がどのように生かされているのかも公表されていないのではないかと思います。オミクロン株の急速な蔓延に伴い、2022年1月1日～3月31日の期間だけでも市立小中学校の陽性者(教職員含む)は3496人という多数に及びました。感染者が増えれば、割合としては小さくても絶対数として重症例が出てしまいます。市民病院の小児病棟に入院した患者数を見ても、決して軽視できない症例(中等症以上)が多数あったことが確認されます。

また例えば「学校における感染症対策実践事例集」(令和4年3月公益財団法人日本学校保健会)などもあり、ここには「集団感染リスクへの対応」として、換気の徹底方法がサーキュレーターやCO2モニターの使用等、具体的かつ詳細に記載されています。これにはマスク着用についても基本的対策の1つとして記載されています。このようなものも積極的にご参照頂きたいと考えます。

以上より、今後も引き続き、学校現場での感染対策においては、専門家の知見を積極的に取り入れた対応を強く求める次第です。

神奈川県藤沢市藤沢551-1日進ビル7階

太田 啓子

